

絵地図で見る玉野の塩田たち

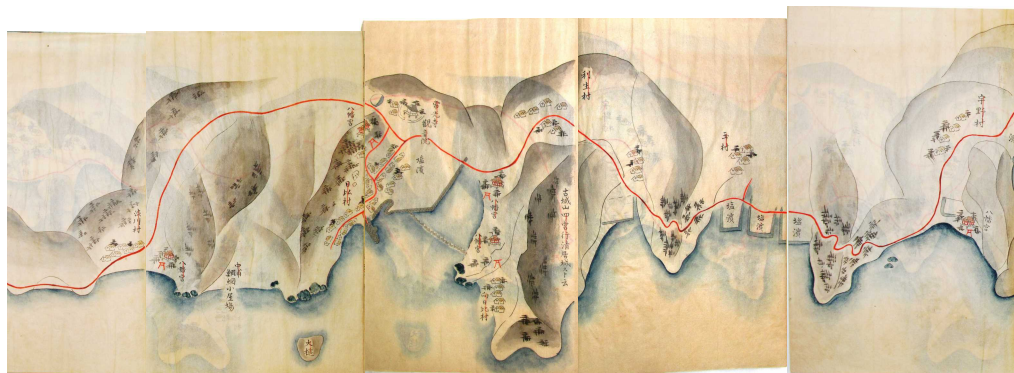
玉野市教育委員会・玉野市文化財保護委員会

玉野市は、明治43年(1910)の宇野線・宇野港・宇高連絡船の開業後、大正6年(1917)の三井造船の誘致などをきっかけに急速な発展を遂げ、今では「企業城下町」の一つにもあげられています。今回の歴史展示コーナーでは、玉野の沿岸部に「地場産業」として成長していた塩田について、江戸から明治までの姿を絵地図などで紹介します。11月には、市内の企業や市民の皆様から提供された古い塩田の写真や江戸時代以前の資料も加える予定です。

近世塩田 古浜の時代 展示ガラスケース1号

絵図 1 江戸中期玉野の南岸諸村と塩田

岡山大学附属図書館所蔵 池田家文庫 「備陽記」巻23の「備前国児島郡浦辺絵図」



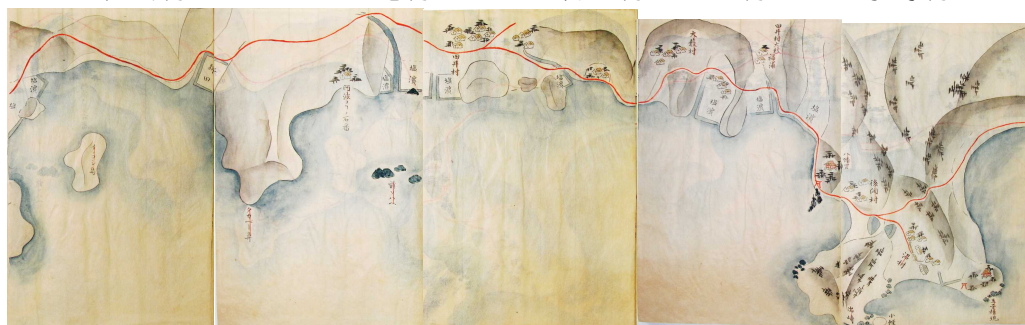
渋川村

日比村

利生村

玉野

宇野村



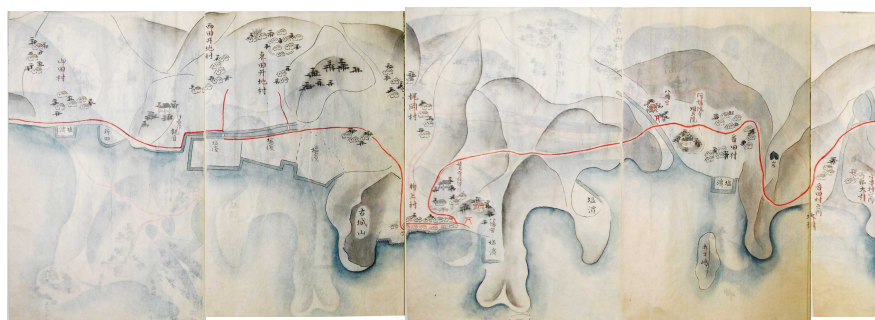
宇野村

田井村

大薮村

後閑村

沼村



山田村

西田井地村

東田井地村

梶岡村

胸上村

番田村

江戸時代、玉野南岸の村々は味野などの西児島の村々と同じく塩業が盛んで、多くの塩田が造られていました。左の絵図は、享保6(1721)

ころの渋川から番田までの絵図を示したもので、塩田のほかにも集落や道路、港や神社仏閣などが描かれており、約300年前の玉野の南岸諸村の姿を知ることができます。

絵図 2 寛保 3 年田井村広潟・前潟開発計画

岡山大学附属図書館所蔵 池田家文庫「撮要録」巻 11 の挿入図

寛保 3（1743）、岡山藩の郡奉行田坂与七郎は、田井村前潟と広潟の塩田計画を立てました。前潟は堤防 230 間（約 4.2 km）14 町 6 反のうち塩浜 9 町 3 反、動員人夫 33,800 人、広潟は 270 間（約 4.9 km）20 町 6 反のうち塩浜 13 町 5 反、人夫 46,700 人という壮大なものです。

右図はその全体図ですが、この中には宇野村にも堤防 330 間（約 6 km）16 町 6 反の計画が描かれています。また、沖合いには出崎から直島までの島々も描かれています。しかしこの計画は実現されず、天保期以降の着工を待つことになります。



絵図 3 寛政 10 年（1798）備讃瀬戸の諸村と島々

玉野市教育委員会所蔵 大崎・三宅家文書 「児島郡日比村海面獵場見取絵図」部分

この絵図は展示している絵図の日比から田井までの部分です。ここには本来塩田が点在しているはずですが省略されており、日比の塩田のみが描かれています。のちにオランダ商館医として来日するドイツ人シーボルトは、文政 9 年（1826）日比に上陸し塩田を視察したとあります。日比に野崎武左衛門が亀浜を着工するのが文政 13 年ですから、シーボルトが見た日比の塩田は、この絵図にある「日比古浜」だったことがわかります。



表 1 文化 10 年（1813）玉野地域の塩田面積

村名	面積(畝歩)	村名	面積(畝歩)
洪川	記載なし	山田	215畝16歩
日比	132畝23歩	西田井地	167畝2歩
向日比	記載なし	東田井地	86畝7歩
利生	記載なし	梶岡	70畝28歩
玉	51畝24歩半	胸上	327畝24歩
宇野	200畝6歩	上山坂	記載なし
福原	27畝半	下山坂	記載なし
田井	425畝7歩半	北方	14畝29歩
大藪	18畝26歩半	番田	227畝21歩
福浦	88畝2歩半	(小串)	(22畝5歩)
後閑	37畝15歩半	合計	21町1反1畝26歩
沼	23畝11歩半	合計には小串を含まず。	

表 1 は「児島郡手鑑」という史料に掲載されている児島郡全村の記録から、玉野地域の塩田のみを抜き出して表にしたものです。100 年前の塩田面積と比較すると、宇野・田井の塩田面積が全く同じなのを除き、全ての村で面積が減少しています。ただ、日比と山田では漏れていた塩田が計上され、全体として 27 町余あった塩田が 21 町余へと、約 2 割減りました。中には畑になったり、荒地になった所もあったようです。

新浜の出現

塩田王野崎武左衛門が文政 10 年（1827）に着手した野崎浜をきっかけに、児島半島南岸の村々に新しい形の塩田が続々と造られます。これを「新浜」と呼びます。古浜と新浜には下のような違いがあります。どちらにも優劣はありますが、新浜の出現は経済活動をより活発にし、次の資本主義社会を準備することになりました。

古浜	①面積が1～3反と狭い ②農家の副業として零細な経営 ③燃料は薪で火力は高くなく、大量生産できない ④にがりやミネラル分が多く重い ⑤味噌や豆腐・醤油造りに不可欠で、備前醤油などの産業成長	新浜	①面積が1～2町と大規模 ②塩田地主の成長、専門の技術者や浜子等の労働者が登場 ③燃料が石炭に変わり、高温で大量生産が可能 ④ミネラル等が飛び、重量は軽い ⑤廻船業をはじめ諸産業の発達
----	--	----	--

表 2 玉野地域のおもな塩田の出願～検地時期

表 2 は、玉野地域のおもな塩田の完成時期を、様々な文献にあたってまとめたものです。宇野古浜と日比古浜以外はすべて新浜です。これらのうち、野崎武左衛門が造った東野崎浜と日比亀浜以外は、地元や他村の有力者が出資しました。中でも田井の前潟の天保 7 年（1836）の完成が、最も早かったようです。

山田～胸上	東野崎浜	天保2出願	『撮要録』後編
山田・沼	東野崎浜南浜	天保9着工・天保12成就、同12.9と嘉永4.1検地	『備前児島野崎家の研究』
西田井地～胸上	東野崎浜北浜	文久2着工・文久3完成	『児島塩業史年表』
		明治3.10検地、6町9反7畝7歩	東児町役場文書
宇野	宇野古浜	慶長年中完成※	『岡山県児島郡誌』
	宇野新浜	天保14一部年貢開始	『撮要録』後編
田井	前潟浜	6・7番 天保6汐留 天保7開立	『玉野古事記』
	広潟浜	8・10・11・15番 天保11汐留	『玉野古事記』
	見能潟浜 (一名城ヶ浜)	天保11見分・嘉永3完成・嘉永5検地	藤戸・星島家文書
		1・3・南4番 弘化2汐留・開立	『玉野古事記』
		北4番 安政2汐留	
玉	玉浜	嘉永5.2出願	藤戸・星島家文書
		嘉永6塩浜問屋決定(完成か)	玉・立石家文書
利生	利生(日ノ田)浜	嘉永5.3出願	藤戸・星島家文書
	利生(深井)浜	天保14年貢開始、1町8反9畝3歩半	『撮要録』後編
日比・利生・向日比	亀浜	文政13.11着工・天保2完成	『備前児島野崎家の研究』
		天保3検地、3町4反2畝25歩	『撮要録』後編
日比	古浜	元禄15完成※	『岡山県児島郡誌』

※…異説もありますが、確実な史料は未確認です。

表 3 嘉永年間玉野地域の古浜・新浜製塩俵数

表 3 は嘉永年間（1848～54）の玉野地域で生産された塩俵数をまとめたものです。古浜は番田～後閑と田井～日比の各合計、新浜は田井～日比までの各村のものです。嘉永4年までは両浜ともほぼ同じですが、同5年以降は激増しています。これは実際に製塩量が増えたのではなく、課税対象として把握された俵数に違いがあったからです。

嘉永4年までは、新しい塩釜を築いて生産した1回目の塩俵数にのみ課税されていたのに対し、5年以降は年間通じて生産された全塩俵に課税する制度に改められました。財政難の岡山藩が税収アップを図ったためです。そのため塩田経営は圧迫され、天候不順もあって製塩量は減少していきました。

期間	西暦	古浜		新浜					合計
		番田・北方・山田・後閑の合計	田井・福浦・宇野・日比の合計	田井新浜	宇野新浜	利生新浜	向日比新浜	日比新浜	
嘉永1.7～12	1848	464俵5	1870俵	-	-	-	-	-	-
嘉永2.1～12	1849	915.7	3620	2580俵	1200俵	607俵	103俵	720俵	4535俵7
嘉永3.1～12	1850	921.8	3600	2580	1200	607	103	720	9731.8
嘉永4.1～5.1	1851	879.3	3600	2580	1200	607	103	720	9689.3
嘉永5.2～12	1852	10751.67	43399	107378	41213	23463	3022	20954	250180.67
嘉永6.1～12	1853	11006.2	43978.5	98609	40980	21387	2618	18141	236719.7
嘉永7.1～6	1854	3504	15659.5	41773	13683	10019	1230	8020	93888.5
計		28,443俵17	115,727俵	255,500俵	99,476俵	56,690俵	7,179俵	49,275俵	609,955俵67

岡山県立記録資料館複製資料「藤戸・星島家文書」の各年「諸御用留帳」よりまとめる。新浜の出来塩俵数は運上銀の額から計算した値を示している。嘉永1年の新浜出来塩は資料なし。期間は古浜と新浜の間で若干のずれがあるが、古浜に統一した。俵は塩5斗入り。

絵図4 明治3年東野崎北浜検地帳

玉野市教育委員会蔵 東児町役場文書

右の史料は、野崎武左衛門が開発した東野崎の北浜の明治3年（1870）10月にまとめられた検地帳です。持主は「野崎武吉郎」とあり、この時、野崎家は孫の武吉郎の時代になっていました。塩浜の面積は合計6町9反7畝7歩です。



明治の塩田

明治時代に入ると、塩田は地租改正により、地番・面積・地価・所有者などの調査が行われ、田畑宅地等とともに各村の「地籍」にまとめられました。市内では田井・宇野・玉の三ヶ村で明治9年（1876）の塩田の情報が確認できます。

絵図5 岡山県備前国児島郡沿海村被害実況見取絵図

岡山県立記録資料館蔵「明治十七年海嘯関係書類

岡山県」（C39-11）中の絵図（83.4×114.8 cm）

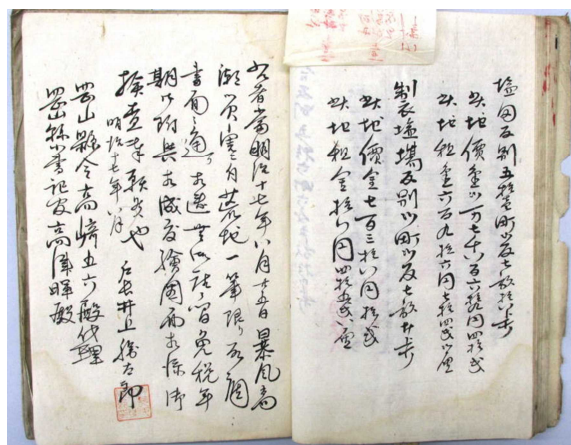
明治17年（1884）8月25～26日にかけて、岡山県下は暴風高潮の大被害に見舞われました。この絵図はその時の児島郡の被害状況を示したもので、味野付近から玉野沿岸までのほとんどの塩田も壊滅的な被害を受け、合計265町余が操業不能になりました。この絵図は、当時の児島郡南岸に塩田がどのように分布していたかを教えてください（展示した絵図の右半分）。



写真6 明治17年8月高潮被害報告書

玉野市教育委員会所蔵

下の史料は田井村役場文書「明治十七年荒地一筆限取調帳」の最後のページで、この年の暴風高潮被害を受けた塩田と製塩場が一筆ごとにまとめられ、被害総計が記されている部分です。このような書類が田井・宇野・和田・日比に残されており、3～10年間の免税措置を求めています。玉でも明治22年から3年間の免税措置を求める願書があり、田井から日比までの塩田地主とその被害がわかります。史料の文面は次のようになります。

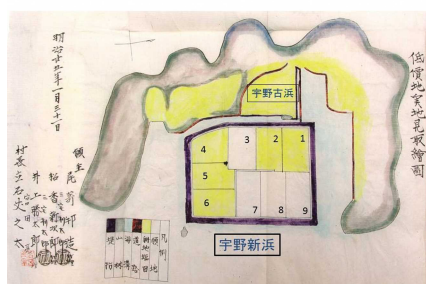


塩田反別五拾壹町貳反七畝拾八歩
此地価金貳万七千八百六拾九圓四拾銭
此地租金六百九拾六圓七拾四銭貳厘
製塩場反別貳町貳反七畝廿歩
此地価金七百参拾八拾銭
此地租金拾八圓四拾五圓四銭八厘
右者当明治十八年八月廿五日暴風高潮災害二付、荒地一筆限り取調書面之通り相違無御座候間、免税年期御附与相成度、絵図面相添御検査奉願上候也
明治十七年八月 戸長井上勝太郎印
岡山県令高崎五六殿代理
岡山県小書記官高津暉殿

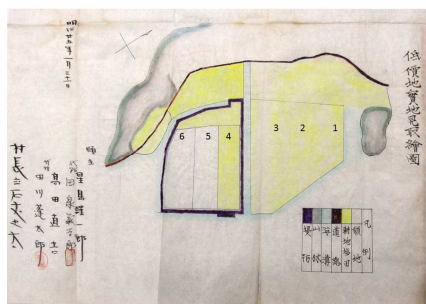
絵図 7～13 市内の塩田絵図と被害状況



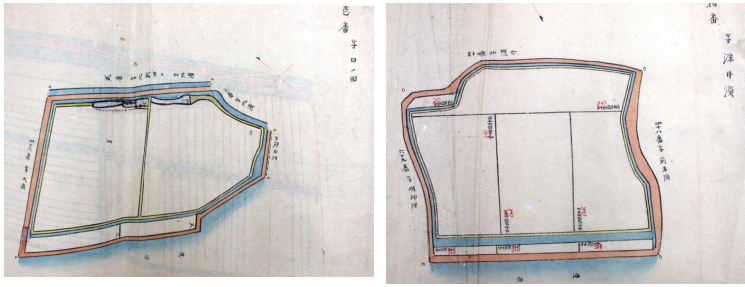
左は田井村広潟・前潟・見能潟を示した絵図です。田井村役場文書「荒地免租年期願等目録」という史料の中にあり、明治24年8月のものです。うち広潟は16枚の塩田（16軒という）、前潟は9軒、見能潟は6軒ありますが、暴風高潮により19ヶ所の堤防が切れ、合計31軒、51町2反余の全塩田が被害を受けました。



左は宇野村の新浜・古浜を示した絵図です。玉野村役場文書「異動地諸願届綴 大字宇野分」という史料の中にあり、明治25年1月のものです。宇野新浜は9軒の塩田があり、図中に示した1～9の数字は浜番号を示しています（例1番浜）。また、古浜のうち1軒分も含め合計15町5反余の塩田が暴風高潮の被害を受けました。

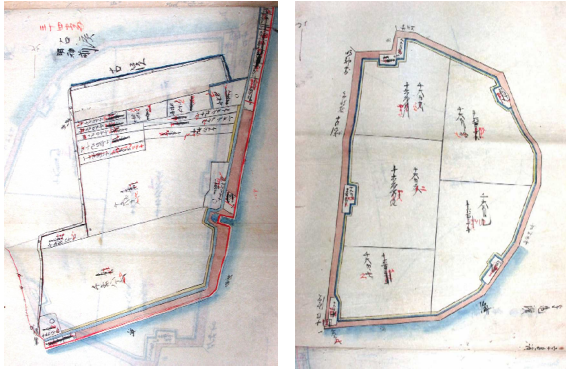


左は玉村の新浜を示した絵図です。玉野村役場文書「異動地諸願届綴 大字玉分」という史料の中にあり、明治25年1月のものです。玉新浜は東浜と西浜合わせて6軒の塩田があります。図中に示した1～6の数字は浜番号を示しています。暴風高潮の時、10町余の全塩田が被害を受けました。



左は和田村の日ノ田浜、右は深井浜です。日比村外二ヶ村戸長役場文書「土地調査地押字限図下調べ精帳 和田村」の字日ノ田と深井浜の切絵図で、明治20年4月のものです。日ノ田浜は2軒、深井浜は4軒があり、合わせて

6軒の塩田は、暴風高潮時に合計7町2反余の塩田が被害を受けました。



左は日比古浜、右は亀浜です。日比村外二ヶ村戸長役場文書「日比村地押字限図」の字古浜と亀浜の切絵図で、明治20年前後のものと思われます。亀浜は5軒分、古浜には2軒分と11筆の小さな塩田（釜屋1軒）があります。合わせて8軒の塩田は、暴風高潮時に合計15町1反余の塩田全部が被害を受けました。

表4 明治17年頃の塩田所有者一覧

村	番地	塩田名	面積(畝歩)	持主	村	番地	塩田名	面積(畝歩)	持主
田井	4744	広潟	164畝18歩	田井村 宮田禹作	田井	4784	前潟	146.12	田井村 井上勝太郎・吉岡長蔵
田井	4746	広潟	173.23	大崎村 三宅歎太郎	田井	4786	前潟	146.14	味野村 野崎武吉郎
田井	4748	広潟	176.05	味野村 野崎武吉郎	田井	4788	前潟	149.09	味野村 野崎武吉郎
田井	4750	広潟	174.15	味野村 野崎武吉郎	田井	4790	前潟	176.29	田井村 井上勝太郎
田井	4752	広潟	173.29	味野村 野崎武吉郎	田井	4792	前潟	127.27	大崎村 三宅歎太郎
田井	4754	広潟	86.18	田井村 小山関五郎・小山七蔵	田井	4794	見能潟	196畝27歩	熊沢利吉外8人
田井	4754の1	広潟	86.18	宇野村 青井平四郎	田井	4796	見能潟	209.14	味野村 野崎武吉郎
田井	4756	広潟	174.29	宇野村 青井亀一郎	田井	4798	見能潟	204.16	野崎武吉郎・井上勝太郎・岸田舜平
田井	4758	広潟	177.08	味野村 野崎武吉郎	田井	4800	見能潟	226.00	田井村 井上勝太郎外3人
田井	4760	広潟	176.15	大崎村 三宅弥三郎	田井	4802	見能潟	126.04	味野村 野崎武吉郎
田井	4762	広潟	169.08	田井村 岸田舜平	田井	4804	見能潟	143.27	田井村 井上勝太郎
田井	4764	広潟	173.09	田井村 岸田舜平	宇野	1886	古塩浜	119.05	宇野村 青井亀一郎
田井	4766	広潟	169.14	田井村 井上勝太郎	宇野	1952	新塩浜1番	173.26	田ノ口村 尾崎邦蔵
田井	4768	広潟	178.15	大崎村 三宅歎太郎	宇野	1954	新塩浜2番	176.05	宇野村 青井亀一郎
田井	4770	広潟	174.06	味野村 野崎武吉郎	宇野	1956	新塩浜3番	176.05	宇野村 青井平四郎・青井亀一郎
田井	4772	広潟	171.08	田井村 岸田舜平	宇野	1898	新塩浜4番	189.12	田ノ口村 尾崎邦蔵
田井	4774	広潟	170.11	味野村 野崎武吉郎	宇野	1960	新塩浜5番	161.15	宇野村 青井利三郎
田井	4776	前潟	148.09	田井村 井上勝太郎外3人	宇野	1962	新塩浜6番	168.17	宇野村 青井平四郎
田井	4778	前潟	167.00	大崎村 三宅弥三郎	宇野	1964	新塩浜7番	169.17	田ノ口村 尾崎邦蔵
田井	4780	前潟	144.29	山田久六外6人	宇野	1966	新塩浜8番	169.10	田ノ口村 尾崎邦蔵
田井	4782	前潟	148.02	田井村 井上勝太郎	宇野	1968	新塩浜9番	174.09	宇野村/上村 青井平四郎・青井亀一郎/松香新次郎

村	番地	塩田名	面積(畝歩)	持主
玉	2947	1番浜	178畝18歩	玉村 宮原豊
玉	2946	2番浜	179.15	玉村 宮原豊
玉	2943	3番浜	179.21	藤戸村 星島雄一郎
玉	57	4番浜	154.14	玉村 宮原豊
玉	55	5番浜	149.25	藤戸村 星島雄一郎
玉	52	6番浜	162.19	下村 高田富士太郎
和田	2755	深井1番浜	146.03	和田村 義若光五郎
和田	2757	深井2番浜	173.15	和田村 義若桂太郎
和田	2759	深井3番浜	169.09	和田村 義田辰三郎
和田	2761	深井4番浜	171.06	和田村 義田嘉三郎
和田	2763	日ノ田7番浜	210.15	下村 渾大防益三郎
和田	2765	日ノ田8番浜	206.18	下村 渾大防益三郎
日比	1040	古浜	147.02	和田村 義田嘉三郎
日比	1042	古浜	183.00	和田村 義田嘉三郎
日比	1044	亀浜1番	205.28	味野村 野崎武吉郎
日比	1046	亀浜2番	209.08	和田村 義田嘉三郎
日比	1048	亀浜3番	194.11	味野村 野崎武吉郎
日比	1050	亀浜4番	217.02	味野村 野崎武吉郎
日比	1052	亀浜5番	230.19	味野村 野崎武吉郎

田井・宇野・日比の小規模所有者は省略。田井以東の塩田は史料がないので除く。

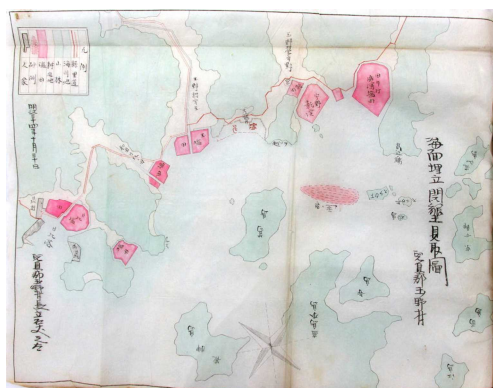
明治17年頃の面積塩田地主(田井～日比)

在村・氏	所有面積合計
味野村野崎氏	2525.83畝
宇野村青井氏	1063.13
和田村義田氏	879.83
大崎村三宅氏	823.67
田ノ口村尾崎氏	702.17
田井村井上氏	639.40
田井村岸田氏	513.83
玉村宮原氏	512.57
下村渾大防氏	417.10
和田村義若氏	319.60
その他	1480.93
総計	7352.23

前頁の表4は明治17年(1884)頃の田井から日比までの塩田所有者をまとめたものです。2反以下の持主は省略しました。これを所有者ごとに集計して順に並べたものが右下の表です。塩田王と呼ばれた味野の野崎家が25町を越えて、全体の1/4を占めています。次いで宇野・青井氏一族で10町、和田・義田氏、旧大庄屋の大崎・三宅氏と続き、田井の井上・岸田氏、玉・宮原氏、和田・義若氏などの玉野在住者が見えています。ただ、野崎家はこの時、約70町ある東野崎塩田をすべて所有しており、これを加えると圧倒的な地位を占めます。『岡山県史 近代Ⅰ』に「味野・山田地区には日本最大の塩業家野崎家が君臨し、宇野地区には井上・宮原家の地主…」が活躍したと記述する時期は、明治も後期になってからのことです。

絵図 14 明治34年10月広潟～日比沿岸の塩田

玉野市教育委員会蔵 玉野村役場文書「土地二関スル諸願届綴大字宇野」の中の綴込絵図

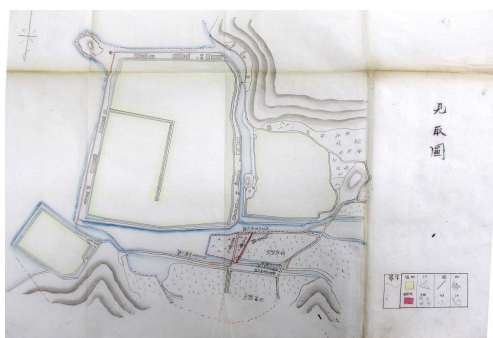


左の絵図は明治34年(1901)10月の広潟から日比までの塩田が描かれたものです。宇野の小浦や和田日ノ田浜の対岸の塩田もできています。

この絵図の本来の目的は、藤井海岸の埋立を出願するもので、赤字で「願地」と記入されています。当時は、宇野と玉を合わせて玉野村、利生と向日比を合わせて和田村、そして日比村と分かれていました。沖合いには直島諸島が見えます。

絵図 15 明治39年9月宇野古浜・新浜の絵図

玉野市教育委員会蔵 玉野村役場文書「異動地諸願届綴 大字宇野分」の中の綴込絵図



左の絵図は明治39年(1906)9月の宇野新浜・古浜・小浦の塩田を描いたものです。この絵図は、新たな道路が開通したため不用になった堤防の地をもとの所有者に返還するための願書に添えられたもので、堤防は赤で書かれています。古浜と新浜の境の川は現在の「汐入川」で、今のメルカとザグザグの間にある川です。新浜の海側には「野児島」と呼ばれた島があり、かつて宇野港の象徴の一つであった大煙突が明治44～5年に建設される場所です。

おわりに

明治38年(1905)6月、日露戦争の戦費調達のため、明治政府は大蔵省に専売局を設けて塩の専売制を導入しました。製塩業は政府の統制下に置かれ、数次の塩業整備で塩田の統廃合は続き、製塩業から手を引く塩田地主も増えていきます。

なお、今回取り上げなかった製塩作業の流れや塩田で働く人たちの生活、玉野地域からの塩の販売や輸送など、様々なテーマも残されています。精錬所や造船所が誘致される前の玉野の有力な「地場産業」が、製塩業だったと言えるでしょう。